

日本パン技術研究所

アレルギー物質を含む食品の表示

アレルギー患者はどう食品を選ぶのか

(一社)日本パン技術研究所調査部は5月24日、パン科学会館で「アレルギー物質を含む食品の表示について」患者は食品表示をどのように見て食品を選ぶのか」と題した講演会を開催した。講師はNPO法人アトピー地球の子ネットワーク事務局長の赤城智美氏。最初に日本パン技術研究所の井上好文所長が「赤城講師は、ご自身もご子息もアレルギーを持っている。今日は事例に基づきアレルギー患者がアレルギー表示を見てどう食品を選んでいるのか、をお話したい。たく、食品メーカーはこれを参考に、どう対応していくかが大事になってきている」とあいさつし直ちに講演に入った。

原因食物が多いのは卵、乳製品、小麦

アレルギーの起こる仕組みには、食物の材料が深く関わっている。人間の免疫反応には、I型からIV型まであるが、今回はI型のみ取り上げる。免疫は身体を守るための仕組み。特にアレルギーに関わっているのはIgEで、これは身体の中に入ってくる異物を認識するセンサーのようなものである。

身体に異物が入るのは、鼻、気道、肺、食物や水の

通り道、食道、胃、腸の通り道、あと皮膚から入る通り道がある。身体に入るのは、呼吸、経口、経皮の3つの場所があり、これはアレルギーの原因物質(異物)の通り道でもある。学校給食でパンと一緒に紙パックの牛乳が出ると、男子生徒がパックをつぶして遊んで飛沫が飛ぶことがある。その飛沫が乳アレルギーの生徒に付いて蕁麻疹が出た事例がある。こぼした牛乳を拭いたさうきんに触って蕁麻疹が出たケースもある。昔から日本では畳の畳アレルギー、欧米で

は、パン屋の喘息がよく知られている。身体に入ってくる異物を認識するIgEは、異物の通り道に待機している。身体に大きな分子(タンパク質)が入ってきてIgEセンサーに引っかかると、マスト細胞が刺激され、ヒスタミンやロイコトリエン、プロスタグランジンが放出される。これが毛細血管を広げ、中から水分が出る。身体にとってはかゆみなどの刺激になる。これらの一連の流れを抗原抗体反応と呼ぶ。

食物アレルギーの約90%は皮膚症状

加工食品のアレルギー表示対象品目には、特定原材料7品目と、特定原材料に準じるアレルギー物質を含む食品20品目があるが、これら品目のうち「まつたけ」「あわび」が原因食物の人は極めて稀だと思ふ。

私もでは食物アレルギーの人が半分以上参加する120人規模のキャンプを、毎年20年間開催しているが「さけ」がアレルギーの人よりも「たら」がアレルギーの人の方が遙かに多い。しかし特定原材料に準



アレルギー物質を含む食品表示への関心の高さを伺わせ満員に

じるアレルギー物質を含む食品20品目には含まれていない。



赤城智美氏

2014年のモニタリング調査では食物アレルギーの人のうち92%は皮膚症状(蕁麻疹)だが、33.6%は呼吸器症状、28%は粘膜症状、18.6%は消化器症状、そして10.4%はショック症状(アナフラキシーショック)で、命に関わる重篤な症状を起す。

アレルギー物質を含む食品の表示

これらの症状の傾向は、この十数年はほぼ変わらない。同じ調査で、原因食物は「卵」39%、「乳製品」23%

食品メーカーはアレルギー物質について、パッケージに様々な表示を行っているが、患者を迷わせるような表示が少なくない。だから是非の判断ができず誤食してしまうこともある。

新しい製パン基礎知識
再印刷
竹谷 光司著
A5 282頁1,800円+税(送料300円)
03-3862-6041

%、「小麦」12%の3つで全体の74%を占める。この3つは食品メーカーにとって大きな課題といえる。

「ピーナツ」は5%と少ないが、徐々に増えている。エスニックフーズが増えたことと関係があるのかもしれない。「果物」もまた増えている。

花粉症の人が果物にも反応を起こすことが時々あるが、これは樹木の実である果物と、樹木の花のタンパク質の配列が似ているために起こす体内の免疫反応の誤作動のようなものである。

交差抗原性として知られている。

表示ミスの事例としては①原材料供給元からの伝達不備②原材料に関する情報の転記ミス③製造者が原材料について正確な情報を持っていない④ラベル表示ミス⑤ラベルタータの入カミス⑥ラベルの貼り間違い⑦規格書の点検不備⑧ラベル・カタログ表記の確認漏れなどが挙げられる。

例えば①「クリーミングパウダー」の表示を乳製品と思えない②「ピーナツ」と落花生を同じものと認識できず見落とす③「原材料の一部に小麦を含む」の表示を一部なら大丈夫と誤解する④「植物タンパク」が「小麦グルテン」のことと理解できなかった——などの事例があった。

表示ミス以外に製造過程での混入もある。ちなみに食品分類別回収件数の多いのは、野菜、菓子、パン、水産加工品、調理品の順である。